

## 児童の日記に見られる述べ方について (Ⅳ)

——N. W. 児の4年生時の日記に見られる冒頭部分の表現に注視して——

岡 利 道

### A Study of the Expression of a School Child's Diary (4)

— With Special Reference to the First Sentence of  
N. W.'s Diary in the Fourth Grade —

Toshimichi Oka

#### 1. 研究の目的と計画

これまでの報告<sup>1)</sup>で研究の目的とその計画について触れているが、計画については今一度ここに示し、本報告の位置づけを明確にしておきたい。

㊦ N. W. 児の小学校6か年の日記における冒頭部分の述べ方についてまとめる

1年生 (報告済)    2年生 (報告済)    3年生 (報告済)    4年生 (本報告)  
5年生    6年生

㊧ N. W. 児の小学校6か年の日記の全体的な構成という面での述べ方についてまとめる

1年生    2年生    3年生    4年生    5年生    6年生

㊨ 総括をする (他児童との比較もまじえながら)

#### 2. 研究の概要

##### (1) 4年生時における作文指導の実際

担任は、前年度から引き続いて男性教諭 (当時41歳) である。取材によれば、日記を書くにあたって、

○日付、題を書くこと

○内容は自由とする

といった約束事は継続されており、「書くことによって自分の生き方やくらしを見つめる・ふりかえるという面を、さらに強調していった」 (担任教諭談) とのことである。児童が取り上げる内容は、本人のくらしそのものであり、くらしの中で感じたこと・考えたことである。日記を書くことによって、くらしをふりかえるわけである。日記は、前学年に引き続いて、毎日書いて提出するように促され、短いコメントをつけて返却されている。学級の児童の日記は、適宜学級通信によって紹介されている。N. W. 児の日記は、他の児童よりも比較的多く学級通信に掲載されており、本人にとってかなり励みになったようである。

担任教諭は、時折特設単元として行事作文的な文章を書かせることもあったが、おおむね国語の教科書 (光村図書版) における作文単元を取り扱うという形をとってきたようである。作文単元の指導と日記の指導との関連については強く意識していたわけではなかった、とも聞い

ている。

ここで、ひととおり教科書の作文単元について見ておきたい。間接的ではあるものの、N.W. 児の日記における述べ方に少なからず影響があったと考えるからである。

○5月 メモを生かして

○9月 一さつの本から

○1月 成長のアルバム

○3月 四年一組物語<sup>2)</sup>

本論文の末尾に、それらの教材文を掲げておく。

そのうち、「一さつの本から」は、いわゆる読書感想文を書く単元である。担任教諭は、その単元と結びつけながら、夏休み・冬休みの家庭学習として、学級の児童に読書感想文を書かせている。両方とも、400字詰め原稿用紙3枚の分量である。N.W. 児は、それに応じて、2回とも読書感想文を書き、担任教諭に提出している。

また、「成長のアルバム」は、企画力や資料収集能力など、総合的な表現の力が試される単元である。担任教諭は、この単元の指導に最も力を入れていった。N.W. 児もそれにこたえて、熱心に自分の作品（アルバム）を完成させた。

このように、N.W. 児は、多様な書く活動を経験しており、それに呼応して、冒頭部分の表現も豊かになっている。

## (2) N.W. 児の4年生時の日記に見られる冒頭部分の述べ方

標記のことを整理するにあたり、N.W. 児の4年生時の日記に見られる冒頭部分を一覧表化し、基礎資料とした。それを以下の①で示し、それをもとに見出したことを②から後のところで示す。

それに先立って、表1（基礎資料）中の記号等についてのおおまかな説明をしておきたい。左の項から順に説明する。

○No.→通し番号。4年生時は、730から853までである。即ち124日分の日記を取り上げたということである。

○月日→平成2年の7月22日から平成3年の3月23日までである。

○題→日記に題をつけている場合は記すことにする。4年生時では、すべて題がつけられている。

○冒頭部分の表現→冒頭部分の文表現である。誤字・脱字があっても、そのまま示した。N.W. 児のその時の心理状態や発達の様を、よりリアルに理解できると判断したことによる。

○文数→その日の日記のセンテンス数である。

○総字数→その日の日記におけるすべての表現を、音節の合計数としてまとめた。例えば、日記中に「白」という表現があれば、1字とカウントするのではなく、「しろ」の2字としてカウントしていくのである。なお、題の字数もこれに含めている。

## ① 結 果

表1 基礎資料

No.	月	日	題	冒 頭 部 分 の 表 現	文数	総字数
730	7	22	プール	とてもあつい日だったのでプールへ行きました。	3	98
731	7	23	部活	部活がありました。	6	93
732	7	24	オールコート（部活）	部活で今日はオールコートをつかいました。	3	74

児童の日記に見られる述べ方について (Ⅳ)

733	7	25	けんどう	わたしは3年の時からけんどうをしています。	4	100
734	7	26	四年プール	はじめての四年プールでした。	5	116
735	7	27	れんしゅうじあい (部活)	じょうほうしょうがっこうとれんしゅうじあいがありました。	4	131
736	7	28	お祭り	大輪町のお祭りと、大輪町のけつえきセンターのおまつりがありました。	6	222
737	7	29	海へ行ったよ。	3時すぎから海へ行きました。	5	120
738	7	30	はいしゃ	しせきとりにはいしゃへいきました。	6	102
739	7	31	暑中げいこ	けんどうで今日から四日まで暑中げいこがあります。	2	60
740	8	1	プール	おじいちゃんと社会ほけんセンターのプールへ行きました。	3	96
741	8	2	四年プール	また四年プールがありました。	5	137
742	8	3	わたしのなおすところ2つ	部活とかで、おなじ四年生に、なかまはずれやいじめられたりします。	5	197
743	8	4	部活ではじめてのしあい	はじめてしあいをしました。	5	115
744	8	5	水ごうさい	きのう土曜日から今日にかけて水ごうさいがひらかれました。	3	84
745	8	6	工場見学	ほけんしょの工場けんがくがありました。	9	210
746	8	7	けいさんドリル	夏休みのしゅくだいの自由べんきょうでけいさんドリルがあります。	3	86
747	8	8	プール	お母さんとおじいちゃんと社会ほけんセンターのプールにいきました。	2	68
748	8	9	あつい日	とってもあつくてあつくてたまりませんでした	5	119
749	8	10	デパート	いちばたへ10時30分ごろいきました。	3	77
750	8	11	たぎのおばあちゃん	ことは1人だとさびしいので2組のすわさんとわたしの おばあちゃんへきました。	4	120
751	8	12	くも	朝5時39分におきて外をみたら、日のあたったくもがでて いました。	3	77
752	8	13	車のそうじ	おとうさんとおかあさんとわたしで車のそうじをしました。 した。	7	180
753	8	14	かいとり	海へかいとりに行きました。	4	79
754	8	15	としょかん	じゅうけんきゅうでしよく中どくのことをやろうと思って 初めて、プラパホールのしりつとしょかんに行ってしよく 中どくについての本をかりました。	2	95
755	8	16	とうろうながし	初めてとうろうながしを見ました。	5	142
756	8	17	こうはんの部活	バスケット部では今日からこうはんの部活がありました。	6	170
757	8	18	からくり	いちばたの5かいでからくりへ行きました。	4	133
758	8	19	しあいのくみあわせ	こんど23日と24日にバスケットのしあいがあります。	6	132
759	8	20	うちあげはなび	いえのほうはかぜがなかったのでしんじこへ、うちあげは なびをしに行きました。	4	142
760	8	21	アイスがすぐとける、	アイスをたべていたら、すぐとけてなくなってしまいま す。	3	94
761	8	22	ひさしぶりのけんどう	2しゅうかんけんどうも夏休みでした。	4	101
762	8	23	自由勉強	夏休みのしゅくだいの自由勉強が今日おわりました。	5	112
763	8	24	バスケットのしあい	23, 24とバスケットのしあいがありました。	6	181
764	8	25	部活がおわってほっとした	きのう金ようびで、部活がおわってほっとしました。	2	67
765	8	26	おたんじょう会	石川さんのおたんじょう会にしょうたいされて行きました。 した。	4	109

766	8	27	どくしょかんそうぶん	ようやくいまごろになって、どくしょかんそう文を書きはじめました。	4	117
767	8	28	プール	おじいちゃんと、プールへ行きました。	4	104
768	8	29	けんどう	けんどうで、まめや、たこができて、とてもたいです。	5	93
769	8	30	新しいでんわ	でんわがちょっとおかしくなって、新しいでんわをかいしました。	3	94
770	8	31	自由けんきゅう	夏休みのしゅくだいで自由けんきゅうだけのこっていました。	6	162
771	9	11	合唱だんきんしょう	合唱だんは今日県大会のためいずもへ行っていました。	4	215
772	9	12	水泳大会	1・2時間目は、中学年の水泳大会でした。	8	234
773	9	19	たいふう	今たいふうが島根県のほうに、むかってくるみたいです。	5	108
774	9	21	小体連（バレー・サッカー）	四年生からうえの人から、おうえんに行きました。	8	249
775	9	22	ひさしぶりの部活	ひさしぶりに部活に出ました。	5	203
776	9	23	だいぶすずしくなった	このごろ、朝、夜がすずしくなりました。	3	104
777	10	2	道とく、	4時間目の道とくの勉強で、『おかあさんかないで』という、お話について勉強しました。	4	131
778	10	12	社会（教生の先生の勉強）	5時間目の社会で火事について勉強しました。	5	197
779	10	13	全活	今日は全活で、いろいろつくる全活でした。	4	79
780	10	16	四角形	算数の勉強で四角形の勉強しました。	10	319
781	10	18	国語	山さき先生のじゅぎょうでした。	6	145
782	10	19	Aはんの先生のさいごの日	1校時は音楽で古川先生のじゅぎょうでした。	10	264
783	10	22	ディスカバー松江	全校活動で『ディスカバー松江』、でした。	10	338
784	10	23	校外学習	4年校外学習でした。	6	143
785	10	25	さんかん日	2時間目の図工でさんかん日でした。	6	183
786	10	27	川津とれん習試合	部活で、男子も女子も、れん習試合でした。	7	187
787	10	28	部活	部活で、山さき先生の子どももきていました。	7	175
788	11	6	佐々木先生の音楽	6時間目の音楽は、佐々木先生のじゅぎょうでした。	7	229
789	11	7	朝の草たち	このごろは、朝夜がさむくなってきました。	4	156
790	11	8	Bはんの先生のけんきゅうじゅぎょう	1 2 3時間目とけんきゅうじゅぎょうでした。	4	93
791	11	14	体育のさんかん日	5時間目の体育は、さんかん日でした	12	374
792	11	17	音と訓	国語の時間に、音と訓の勉強をして、しゅくだいができました。	7	176
793	11	20	三四年給しよく	ランチルームで、三四年いっしょに、給しよくを食べました。	5	158
794	11	21	じしん	ぎょうかん佐々木さんが「ゆれた—じしんじゃない」と、いいました。	3	127
795	11	22	音楽	3時間目の音楽は、自習のようなかんじでした。	9	268
796	11	23	こま	今、学校で4の1では、こまがはやっています。	4	105
797	11	27	そうじ	体育館そうじで、高おくんが、なにもしてないのに、けってきたりたいてきたりします。	4	141
798	11	29	11月がおわる	ついこないだまで、10月でした。	6	202
799	12	3	日本人初宇宙へ	きのう、うち上げられた、ロケットにのっていた秋山さんが、日本人初で、宇宙へ行かれました。	5	288
800	12	4	日本人初宇宙へ第二だん	今日は、秋山さんののっているロケットと、ミールステーションが日本時間で6時57分18秒に、がつたいしそうです。	13	701

児童の日記に見られる述べ方について (Ⅳ)

801	12	5	日本人初宇宙へ第三だん	今日も、きのう、おとついにについて「日本人初宇宙へ」というだいの日記を書きます。	7	325
802	12	6	日本人初宇宙へ第四だん	今日は、きのうのように、秋山さんが、カメラを、外へむけてくれました。	10	326
803	12	7	日本人初宇宙へ第五だん	今日のテレビは、スペシャルで2時間やっていました。	8	243
804	12	8	こくばん	こないだから、国語の長さははかるの、だんらくや、小見だしを、かいたままでした。	4	128
805	12	9	日本人初宇宙へ	明日は、いよいよ、秋山さんが、地球にもどってきます。	4	174
806	12	10	日本人初宇宙へ	秋山さんが宇宙へ行ってあつというまに、かえってくる日がきました。	6	209
807	12	11	すごい風	朝は、そんなに風がなかったのにお昼ごろから、すごく風がでてきました。	3	137
808	12	13	4時間目のさんかん日	4時間目の算数は、さんかん日でした。	5	211
809	12	21	いよいよ冬休み	明日で2学期も終わります。	8	185
810	12	22	はるちゃんとのわかれ。	はるちゃんは、かごしまへ行ってしまいました。	8	229
811	12	23	クリスマスパーティ	おじいちゃんたちと、わたしの家でクリスマスパーティをしました。	6	153
812	12	24	クリスマスイブ	クリスマスイブといえば、サンタクロース。	4	98
813	12	25	読書感想文。	わたしは、夏休みや冬休みになってさいごにのこる、しゅくぐたいは読書感想文です。	3	112
814	12	26	雪	夜ぐらいから雪がふってきました。	5	110
815	12	27	歯	歯がいたくて、歯いしゃへ行きました。	5	140
816	12	28	さんぱつ	さんぱつに行きました。	5	100
817	12	29	おばあちゃんの家	おばあちゃんのところへかえります。	4	86
818	12	30	もちつき	おばあちゃんの家で、おもちをつきました。	5	103
819	12	31	なぜ今年がおわるの？	みんな明日から、らい年っていうけど、わたしは、まだらい年になりません。	4	114
820	1	1	新しい年	今日から新しい年です。	3	87
821	1	2	雨	ひさしぶりに雨がふりました。	5	88
822	1	3	お年玉のけいさん	おとしだまをいっぱいもらいました。	4	125
823	1	4	勉強	このごろ自由勉強をしていると、なんかムシャクシャしてきます。	3	108
824	1	5	だんだん冬にちかずいた	このごろ朝夜がさむくなってきました。	3	108
825	1	6	大学ラグビー	大学ラグビーが2時から、やりました。	9	186
826	1	7	もう冬休みもおわる。	長いようでみじかい冬休みでした。	5	204
827	1	8	ひさしぶり	冬休みもおわって3学期がはじまりました。	7	173
828	1	9	席がえ	きのうから、まちにまった席がえでした。	5	132
829	1	21	とびばこプラスおこられちゃった。	4時間目は、体育でした。	16	490
830	1	26	しょうほうしょの見学	2時間目3時間目は、社会でしょうほうしょの見学に行きました。	15	424
831	1	27	チュウリップ	お母さんが、チュウリップをかってきました。	5	180
832	1	28	国語	国語で成長のアルバムを作ることになりました。	4	116
833	1	30	ヤッター完成した。	国語で作っていた、成長のアルバムができました。	5	161
834	1	31	音楽	3校時の音楽は、音楽会の練習でした。	8	168
835	2	4	音楽会の練習	5時間目は音楽会のごうどう練習でした。	7	201

836	2	19	雪	朝、ひえこんだなと思っていたら外を見て見ると、雪がほんのちょっとだけつもっていた。	7	170
837	2	20	また雪	朝、外を見たら、また雪がつもっていました。	6	172
838	2	27	きゅうぎ大会	5・6時間目は、中学年のきゅうぎ大会でした。	23	588
839	3	1	な・なんだあのおつきさまは？	けんどうから帰る時、車の中からちらっときいろくて、大きいのがみえたのでなにかなと思ったら、すんごくでっかいおつきさまでした。	8	252
840	3	2	おわかれ集会	いよいよ六年生もふぞく小学校からおわかれです。	16	432
841	3	3	ゴロゴロパーンポップコーンのできあがり	お父さんとボーリングに行きました。	6	209
842	3	4	給食当番	私は、6 ばんです。	8	221
843	3	6	なななななんとできた	私は、おとついでぐらいから鉄ぼうの練習をしていました。	16	430
844	3	7	てんびん	「ぎゅうにゅうハックの 1000 cc のぶんをあしたもってきて下さい」と、6 日、きのうにいわれました。	7	232
845	3	8	送辞練習	今年初めての送辞練習がありました。	6	176
846	3	9	地区会	3 時間目は地区会でした。	7	259
847	3	11	人が死ぬとは？	9 日土曜日の朝、しんせきのおじいさんがなくなりました。	18	441
848	3	12	手紙	かごしまへ行ってしまったさめしまさんに今日手紙を書きました。	8	157
849	3	13	え・また雪	天気よほうで明日は「くもりときどき雨か雪」といいました。	5	152
850	3	14	いよいよ明日	卒業式は、いよいよ明日です。	8	231
851	3	18	しいたけ	佐々木さんの家へあそびに行きました。	9	282
852	3	19	そろそろ四年の終わりのじゅんぴをしなくちゃ。	そろそろ四年生も終わりにちかずいてきました。	9	236
853	3	23	大輪町地区おわかれ会	大輪町地区のおわかれ会でした。	5	148

## ② 題のパターン

3 年時とはほぼ同様な傾向が見られた。若干の変化は見られる。以下、その要点をまとめる。

○2 年時において主流であり、3 年時においては激減した「(何) のこと」のパターンは消滅した。5 年・6 年時にも現れない。

○名詞形のパターン（複合的なものや固有名詞等も含める）が、前年に続き主流である。124 例中103例を占める。「いよいよ冬休み」(No.809)「ゴロゴロパーンポップコーンのできあがり」(No.841)「え・また雪」(No.849)「いよいよ明日」(No.850)のように、特殊なものもある。また、「朝の草たち」(No.789)のような擬人的な表現は、これまで見られなかったものである。

○文の形をとるもの（用言即ち動詞・形容詞・形容動詞で終わるもの）、或いはそれに近いもの（用言で終わるのではなく、助詞で終わるもの）は、他の21例である。これらのパターンは3 年時に出現し、4 年時は全体に占める比率を高めている。表現も多様化している。他のパターンよりも、内に本人の感情が多く蔵されている。このパターンの題で書き始められた日記の分量は、他に比べて多くなっている。

☆このパターンの場合の総字数平均→252字

☆このパターン以外の場合の総字数平均→160字

他に特徴的なこととしては、No.799より、秋山飛行士が宇宙へ行ったことを扱った「日本

人初宇宙へ」という、シリーズ（テーマ日記的）で展開していくことが挙げられる。4年時で初めて見られたものである。

### ③ 総字数が多い日の題材（トピック）

総字数300字以上の日記は、1年時25例、2年時9例、3年時4例と減少傾向にあった。4年時は12例と、回復してきた。

時期を見ると、2学期の途中と3学期の途中に現れている。夏休みの時期と冬休みの時期との日記は、分量の面で落ち込んでいる。落ち込んだ時期は、休み中で担任教諭のコメントがもらえない、即ち相手意識に欠ける時期である。

3年時と傾向は変わっていない。つまり、題材の特徴としては、次の2つに集約することができる。

ア. 学校生活（学習）と関わりがあるもので、先生や友人、或いは自分が力を入れて取り組むことができた時のことである

イ. 家庭生活（家族）と関わりがあるもので、自分にとってショックだったこと（アクシデントも含む）や目新しい体験などを伴っている場合のことである

ア、イそれぞれについて、4年時における新たなひろがりとは、以下のようなことであろう。

○アについて

No.829に注目する。それは、自分なりに必死でやったことである。結果的（道徳的）にはいけないことなので、本人は先生に叱られても納得している。かえってすっきりとしているのである。そういった思いを述べている点に、精神的な成長が窺える。

No.840にも注目してみる。自分も役割は精一杯果たした。そして、先輩6年生の姿に感激している。また、自分の2年後の姿を重ね合わせている。こうした述べ方即ち考え方はこれまでに見られなかった点である。

○イについて

まず、No.800から見てみる。ショックだったことといっても、いい方の意味である。秋山さんの姿は、本人にとって衝撃的であった。瞬時にして、自分も将来ああいう仕事がしたいと感じたのである。将来の夢につながっている。

次に、No.847を見てみる。親戚のお爺さんの死をめぐって、自分自身の死ということにも意識が及んでいる。逆に言えば、生の意味を問うことでもある。これも、確実な精神的成長であろう。

### ④ 書き出し部分の表現

先のように、総字数300字以上の日記12例について、第1文のまきにはじめの表現（書き出しの表現）を見る。

No.780 算数の勉強で → 「なにを表す語」＋で

No.783 全校活動で → 「なにを表す語」＋で

No.791 5時間目の体育は、 → 「ときを表す語」＋の＋「なにを表す語」＋は

No.800 今日は、秋山さんののっている… → 「ときを表す語」＋は

No.801 今日、きのう、おとついつづいて… → 「ときを表す語」＋も

No.802 今日は、きのうのように、 → 「ときを表す語」＋は

No.829 4時間目は、 → 「ときを表す語」＋は

No.830 2時間目3時間目は、 → 「ときを表す語」＋は

- No.838 5・6時間目は、 → 「ときを表す語」 + は  
 No.840 いよいよ六年生も… → 「どんなだということを表す語」 + 「ひとを表す語」 + も  
 No.843 私は、おとついぐらいから… → 「ひとを表す語」 + は  
 No.847 9日土曜日の朝、 → 「ときを表す語」 + の

傾向は、3年時とほぼ同じであり、目立った変化はない。大体において、日にち、時間等のことを表す語即ち「ときを表す語」が顔を覗かせる。その後に、「の」「は」「も」という助詞を伴っている。ただ、3年時のように、「とき」についての詳しい表現がなされているからその日の日記の内容も盛り上がる、という傾向があるとは言えなくなっている。つまり、この面での因果関係はないと判断すべきである。

### ⑤ 第1文の文末の表現

まず、文末の表現、品詞、実数等をまとめたものを掲げる。なお、※印を付した文末の表現は、4年時に初めて登場したものである。

…た	助動詞	101	→	全体に占める割合は大幅に増加
…ます	助動詞	13	→	全体に占める割合は微増
…です	助動詞	8	→	全体に占める割合は微増
…サンタクロース	名詞（固有名詞）	1	→	※
…ません	助動詞+助動詞	1	→	※

これまでの学年と同様に、第1文の文末の表現と書く内容の盛り上がりとの厳密な因果関係はない。

### ⑥ 第1文の述べ方のひろがり

3年時より、第1文に見られる「ときを表す語」の中で、「このごろ～」という形が多くなった（14例）。それによって、当日のことだけではなく、時間的な幅のあるできごとを取り上げることができるようになったのである。それは、例えば、「このごろまたかくことがなくなったよ」というように、主として、自分にとって好ましくないことを取り上げる際に使用していたようである。4年時では、それは減ってきた（3例）。過去のことだけでなく、近い未来にかけてのことを取り上げるために、「もうすぐ～」という表現などを使うこともあった。

3年時の第1文に見られる「ときを表す語」の使用について、大まかにまとめてみると、次の表・図のようになる。

- No.576 3年生になって～  
 No.578他 きのう～  
 No.588他 このごろ～  
 No.608 4月の29日土よう日の～  
 No.617他 5月17日が～  
 No.623 ずっとまえから～  
 No.624他 こないだ（は）の～  
 No.653 もうすぐ～  
 No.667 今日から5日まで～  
 No.668 夏休みにはいったから～  
 No.675 こんのどの14日に～  
 No.685 もうあと2しゅうかんぐらいで～



児童の日記に見られる述べ方について (IV)

No.714 11月12日の～  
No.719 ふゆやすみにはいって～

－ 1 年      － 1 4 日      － 7 日      当日      + 7 日      + 1 4 日

○ ○

きのう | ← → |

○ 今日から5日まで

5月17日が

○                      ○

| ← → |      もうすぐ

このごろ      こんどの

○                      ○

このあいだ      もうあと2しゅうかんぐらいで

ふゆやすみにはいって

3年生になって

○

4月29日の土よう日の

○

夏休みにはいったから

11月12日の

○                      ○

└──────────┘

まいしゅう

○  
ずっとまえから

4年時になると、わずかに様子が変わっていく。先と同様に、まとめてみる。3年時と傾向はほぼ同じである。

No.733 3年の時から～  
No.744 きんのう土曜日から～  
No.758 こんど23日と24日に～  
No.761 2しゅうかん～  
No.763 23, 24と～  
No.764 きんのう金ようびで～  
No.776他 このごろ～  
No.796 今～  
No.799 きんのう～  
No.801 今日、きのう、おとついにつづいて～  
No.802 今日、きのうのように～  
No.804 こないだから～  
No.805 明日は～  
No.806 明日で～  
No.819 明日から～

- 1年 -1月 -14日 -7日 当日 +5日

○

○

2 3, 2 4 と

○

 $\longleftrightarrow$ 

今日も、きのう、おとついに つづいて

○

こないだから

2 しゅうかん

○

今

○

国語科の教科書にある教材文、日常の会話等の影響が大きいものと思われる。

— 10 —

児童の日記に見られる述べ方について (IV)

注

- 1) 以下の論稿を参照いただければ幸いである。
  - 拙稿「児童の日記に見られる述べ方について (I) —N. W. 児の1年生時の日記に見られる冒頭部分の表現に注視して—」(『表現研究』第59号, 1994年3月, 表現学会発行)
  - 拙稿「児童の日記に見られる述べ方について (II) —N. W. 児の2年生時の日記に見られる冒頭部分の表現に注視して—」(『表現研究』第61号, 1995年3月, 表現学会発行)
  - 拙稿「児童の日記に見られる述べ方について (III) —N. W. 児の3年生時の日記に見られる冒頭部分の表現に注視して—」(『広島文教女子大学紀要』第30巻, 1995年12月, 広島文教女子大学紀要編集委員会発行)
- 2) 「メモを生かして」及び「一さつの本から」は, 光村図書版「国語四上 かがやき」(昭和60年3月31日文部省検定済)に, 「成長のアルバム」及び「四年一組物語」は, 光村図書版「国語四下 はばたき」(昭和60年3月31日文部省検定済)に, それぞれ掲載されたものである。

資料 (教材文)

三 I

題材を選んで開く

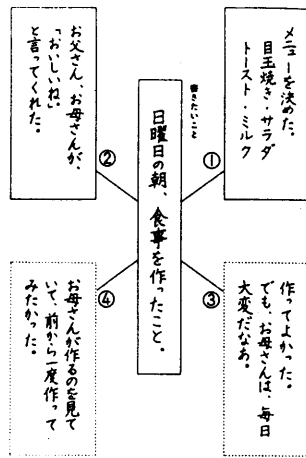
メモを生かして

細川さんは、日曜日の朝に食事を作ったことを、作文に書くことにしました。

まず、次のように、メモの真ん中に、「書きたいこと」を書いてから、したことや話したこと、思ったことを書きました。



細川さんの作文メモ



次に、メモを利用して、作文の組み立てを考えました。

- ・ 初め いちばん書きたい①のところから書きだすことにした。(その中に、④を入れた。)
- ・ 中 ②の食事のところを、次に書くことにした。
- ・ 終わり ③の感想をまとめて、終わりにした。
- ・ 題名 食事を作ったときの気持ちを思い出して付けた。

細川さんの作文(初めの部分)

わたしはコックさん

細川 京子

今日は日曜日。お母さんは、もう、せんたくをしています。「そうだ、今日こそお料理を作ってみよう。」

いつもお母さんが作っているのを見ていて、わたしもやってみた。前かと思っていたのです。

冷蔵庫を開けると、たまごがありました。少し考えてから、目玉焼きならできそうだと思います。お母さんにきいたら、

「あなたが作ってくれるの。やってごらん。」と言いました。それで、わたしは、目玉焼きとサラダ、トーストとミルクの朝食を作ることにしました。

ジュージュー、パチパチ。初めにフライパンに油をぬりました。うまくできるか、ちよつと心配でした。「油がはねるから、気を付けてね。たまごは、一度火を止め

てから落とさない。後、必ずふたをするのよ。」

いつの間にか、お母さんが台所に来ていて、教えてくれました。わたしは、たまごを一つ一つ、

いねいにわけて、フライパンに落としました。

たまごは、二つぐらい焼きます。その間に、サラダの材料をあらったり、おさらをならべたりしました。二分たったので、



火を止めて、ふたを開けました。ちよつとよく焼けていて、いいにおいがしました。わたしは、目玉焼きを一人分ずつおさらのせ、急いでトースターにパンを入れました。

今度は、レタスをちぎって大ざらにならべました。その上には、お母さんが切ってくれたトマトときゅうりをもり、アスパラガスを加えました。冷蔵庫からミルクを出してテーブルに置き、塩こしょうをならべたとき、「チン」とトースターが鳴りました。

「さあ、できた。」

「お父さん、朝ご飯よ。わたしは作ったんだから。早く早く。」わたしは、お父さんをよびに行きました。

ハ II

感想をゆたかに開く

一さつの本から

読みたいと思う本を選んで、ゆつくりと味わいながら読みましょう。そして、心にのこったことや考えさせられたことを読書感想文に書きましょう。

1 本を読み終わったら、全体を通して思ったことや考えたことをメモに書きとめておきましょう。

2 強く心にのこったことを、いつそうはつきりさせるために、もう一度読み返しましょう。そのとき、「しおり」を用

書くことの中心を決めろ

家や学校で自分がしたことの中から、よかったな、楽しかったなと思う題材を選んで、細川さんのように作文メモを作りましょう。そうして、書くことの中心を決め、「初め、中、終わり」の組み立てを考えて作文を書きましょう。

作文を書いたら読み返そう。

○ 題名は、作文の内容がよく分かるように付けてあげるか。

○ 主語・述語の関係、修飾語の使い方、おかしなところは直そう。

○ かなづかいや送り仮名に、まちがいはないか。

このようにしてできたメモや「しおり」を使って、感想文をまとめていきましょう。



わたすかぎりの田んぼを作って、山の人たちがよび集めたい。そして、みんながはらっぱい食えるくらしを作りたい。」と、ほおを熱くしてお母さんにたのんだ。湖がなくなれば、お母さんは死んでしまう。しかし、お母さんは、

○ たくましくなっている太郎について、自分の気持ちを言っている。○ 物語の中心の人物をくわしく書いています。

ら、だんだんたくましく成長していく太郎に、ぼくは、がんばれと心の中で声えんを送った。太郎が一つのこと成功するたびに、ぼくは、自分のことのようにうれしくなった。太郎は、ついにお母さんにめぐり会った。そして、お母さんがりゅうになったのは、たつた三びきのいわなをひとりじめにしたためだということを知った。太郎は、山のまづしくらしを悲しみ、広い土地を作ろうと決心した。「お母さん、お願いだ。この湖をおらにくら。おら、山を切り開いて水を流し、ここに

○ この引用文から、いんしょうにの

友達の作文  
がんばれ、龍の子太郎 島田 清一  
ぼくは、太郎の勇気とやさしさ、そして、お母さんと思う気持ちが強く心にのこった。のんき者でなまけんぼうの太郎は、ある日、死んだと思っていたお母さんが、遠くの湖でりゅうになって生きていると聞き、お母さんをさがし求める旅に出た。旅のどちゅうでさまざまな苦しい目にあつても、太郎は負けなかった。旅をつづけなが

○ 全体を通して強く感じたことが書きだされています。



- 小さいころの様子や出来事。
- 家にある写真や作文、図画などを集めて整理し、説明を書く。
- これからの自分のゆめや希望を書く。
- アルバムを作ろう。
- 書いた文章や整理した写真、作文、図画などを、工夫してならべる。
- 目次・前書き・表紙を付けてとじる。
- アルバムに名前を付ける。



成長のアルバム  
わたしたちは、二十才になると成人式をむかえます。四年生は、十才になる学年です。成人になるまでの、ちようど半分の年令まで成長してきたわけです。そこで、これまでの成長のあとをふり返って、各自「成長のアルバム」を作りましょう。

○ 家の人になぞねて書く。  
○ 生まれたときや生まれた日の様子。

太郎のたのみを聞き入れてくれた。二人は、力を合わせて山を切りくずした。ぼくは、まづしい山の人たちのため、命がけて働く二人のすがたに心をうたれた。えらいなと思った。苦勞の末、ようやく広い土地ができたとき、太郎はうれしくてないた。そのなみだがりゅうの目にかかり、お母さんは人間のすがたにもとることができた。ぼくは、太郎の勇気とやさしさが、お母さんを救い、山の人々を幸せにしたのだと思つた。

○ 考えたことを整理して書いています。

木村さんの作文(アルバムののびる)から  
「道子、おいで。道子がようち園のときにかいた絵が出てきたよ。」おし入れのそうじをしていたお母さんが、わたしをよびました。手には、リボンでとじた面用紙を持っていました。一まい目には、「えんそくにいったこと」とお母さんの字で書いてありました。わたしは、絵を見たとき、大わらいました。それというも、人の顔だけは分かるのです。あとは、円や三角や四角などをこちゃまぜにしたもの



木村さんのアルバム(のびる)から  
アルバム(のびる)について  
成人まで、あと十年。  
木にたとえれば、まだ、  
せの低い小さな木です。  
これからぐんぐんのびて、  
大きな木になりたいと思っ  
て、のびるにしました。

目次  
一 生まれたのはなんの日 2  
二 たか物になった絵 4  
三 うさぎの絵はなんの絵 4  
四 幼稚園の作文と説明 10  
五 こんどは大きくなりました 11  
六 大会はなんの日 15  
七 わたしのゆめ 15

木村さんがまとめた資料

— 生まれたとき(母から聞いて) —

- 昭和51年6月30日 市立病院で。
- 身長 48cm
- 体重 3180g
- つゆの季節で、雨がふっていた。

ようち園のころの絵

— こんどは大きくなった —

	1年	2年	3年	4年	出席日数
身長 (cm)	115	125	135	145	1年—2日 2年—3日 3年—1日 4年—0日
体重 (kg)	25.5	28.5	31.5	34.5	

が、かいてあったからです。どうして遠足なのか、今見るとちつとも分かりません。

でも、四才のころのわたしの気持ち、そのわけの分からない絵にこめられているんだと思うと、その絵をわらうのが、なんだかわいそうに思えてきました。

二まい、三まいとめくっていくうちに、また、おかしい絵にぶつかりました。「ははのひ」と題があります。きつとお母さんをかいたのでしょう。女のうれしい顔と、なんとか「おかあさん」と読める字がかいてある絵です。

お母さんは、

「この絵は、道子がうれしいものを書いた、初めての絵だから、いちばん好き。」

と、まるで、その絵をきくのもうらったかのように言いました。

今のわたしは大きくなったので、字も絵も分かるようにかけるけれども、お母さんにとって、その絵は、とても大切なものなのでしょう。そして、今では、わたしにとっても、たから物になりました。

よくわかるように読解しよう

あなたは、どんな「成長のアルバム」を作りましたか。その内容や作ったときの工夫を、みんなの前で発表しましょう。

○ 始めるときの言葉

「みなさん、これがわたしの成長のアルバムです。題は、

——と付けました。そのわけは、——です。」

○ アルバムの内容や作ったときの工夫の説明

「このアルバムには、——が入っています。」

「工夫したのは、——のところですよ。それは、わたしと——と考えたからです。」

○ 終わりの言葉

「わたしは、このアルバムを作って、——ということを考えました。こ

れて発表を終わります。」

聞くときは、話の要点をしっかりと聞き取るようにしましょう。

## IV 七

立場を変えて 四 四

四年一組物語

次の作文は、中川君が、教室の時計になったつもりで学級の出来事を書いたものです。中川君は、時計の目で見たとように書いています。このように、立場を変えると、同じ出来事でも、ちがった見方で書くことができるようになります。

中川君の作文（前半部分）

がんばれ、北野君

中川 洋平

わたしは、四年一組の教室にかかっている



時計です。黒板の左上から、いつも教室を見下ろしています。わたしの所からは、クラスの子どものたちの様子がよく見わたせます。声もよく聞こえます。

あれは、たしか十月の初めてでした。いつも元気で、朝早くから教室に来る北野君が休んだ日のことです。

その日、わたしのほうが八時三十分を指しても、北野君はやってきません。朝自習が始まるうとしています。そのとき、田村さんと中川君の音が、耳に入ってきました。

「北野さん、どうしたのかしら。中川さんはいっしょに来たんじゃないかったの。」

と、田村さんがきいています。すると、中川君は、

「いつもの所待っていたんだけど、約束の時間になっても来ないのよ、先に来たんだ。何かあったのかな。」

と、わたしを見上げながら、心配そうな声で答えました。

わたしが八時四十分を指したとき、先生が教室に入ってきました。そして、わたしにせを向けて話始めました。

「北野君のお父さんが、昨夜、けがをして入院されました。今朝早くから、手じゆつをするそうです。」

「先生、どこの病院ですか。」

「北野君も病院へ行ったんですか。」

みんなは、口々に先生にたずねました。みんな、心配そうな顔です。中川君が立ち上がって言いました。



「みんな、北野君のお父さんのために、千代紙で折りづるを折ろうよ。」

「わたし、折りづるの折り方知ってるわ。」

田村さんが言いました。わたしも、ぼくもという声が上がりました。それからみんなは、相談して、放課後に折りづるを折ることに決めました。

先生は、首を反らせて、わたしを見上げて言いました。

立場を変えて作文を書く。

四月から今までに学級の中で起こった出来事を思い出して、作文に書くことを決めましょう。

書くことが決まったら、自分が何かになったつもりで、作文に書きましょう。

○ 教室の花びんや黒板などになつて。

○ 校庭の水や鉄ぼうなどになつて。

○ 先生の立場に立つて。

書いた作文を持ちより、「四年一組物語」というような題を付けて、文集にまどめましょう。

（中川君は、この作文を何度も読み返して、書き直しました。これが、その下書きです。）

「北野さん、どうしたのかしら。中川さんはいっしょに来たのじゃないのよ、先に来たんだ。」

と、田村さんが中川君にきいています。すると、中川君は、

「いつもの所待っていたんだけど、約束の時間になっても来ないのよ、先に来たんだ。」

と、わたしを見上げながら、心配そうな声で答えました。

小太刀 光夫

—平成9年10月2日 受理—